

原発事故で福島県から米沢市に避難している住民のための支援施設「おいで」が今月から同市中心部の置賜総合文化センターに移転したことを受け、避難中の母親らが語らうための「ままカフェサロン」が12日、同センター内の和室で始まった。

山形市で同様の取り組みをしているNPO「やまがた育児サークルランド」が主催。福島県内で働く夫と他の家族が離れて暮らす「二重生活」などで悩む母



子連れの避難者らが会話を弾ませた（米沢市で）

“ままカフェ”好評 米沢在住の避難者向け

親と幼児ら計約40人が、オープン直後から集まり、くつろいだ表情を見せた。

長男(2)を連れて参加した母親(33)は「同じ気持ちの避難者が集まれる場所は、自分にも子供にもありがたい」と話していた。

同NPOの土屋清美さん(37)(長井市在住)は「参加した皆さんの意見も聞き、楽しい企画を催したい」としている。祝日を除き、毎週木曜午前10時～午後2時にカフェを続ける予定だ。